

私は高校1年生の時に初めて交通量調査を行いました。それまでは交通量調査という物自体知らなかったです。当時はただ説明された通りに作業を行い、記録を取っていました。しかし、高校3年生になり、課題研究の選択の時に交通量調査があり、そこで僕は、1年生の時はわけもわからず、ただやらされているだけだった交通量調査の記録はどんな意味があって、どのような場所で活用されるか気になるようになりしました。よって僕は、交通量調査を選びました。

私たちは交通量調査当日までたくさんの準備をしてきました。数日前には、1年生に向け、交通量調査について説明を行いました。さらには、説明で必要な資料や、実際に調査で使用するバインダーやカウンターなども用意しました。とても地味でなおかつ大変な作業でしたが、班のみんなと協力して行うことでスムーズに取り組めて、とても楽しかったです。

とてもやりがいのあるいい作業でした。そこで私は、自分たちが1年生の頃にも、同じように作業をしてくれた先輩たちがいることを知って、感謝の気持ちでいっぱいでした。

2学期に入ってから、交通量調査関係のこと以外に、愛知大学と連携して、GPSやGISを学ぶ機会がありました。そこで、GPSとGISの違いについて大学生の方たちと一緒に授業を受け、話し合ったりしました。簡易的に説明すると、GPSとは、人工衛星を利用して位置を測定する仕組み（システム）のことで、身近では、スマートフォンなどに使われています。GISとは、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術のことです。これらのことを、愛知大学の授業の中で学びました。また、実際にGPSを持ち歩き、愛知大学内を回って、GPSの性能を確かめるなどといったとても面白い体験ができました。

この授業を通して、すごくやりがいを感じることもできましたし、交通量調査の大切さを知ることもできました。最初は正直三年生の出番は少ないと思っていました。しかし、授業を重ねていく中でだんだんと作業量も増え、中でも道具の確認を一組ずつ細かく確認する作業が一番大変でした。何グループかに別れクラスごとの道具やプリント等を確認し、足りなかったり余ったりしたら修正し、それをまた詰めなおしました。すごく大変な作業でとても疲れましたがやりがいを感じましたし、意外にも三年生の出番が多いことを知ってびっくりしました。また、交通量調査終了後、一年生が取ってきてくれた交通量調査のデータを私たち三年生がまとめます。そこで計算ミスや記入を見つけては修正し、最終確認のうえ、提出します。このような地味な作業も、すべては地域のために行っていることだと気づきました。交通量調査を通して、地域に貢献もできると知って、私は改めて交通量調査の大切さを理解することができました。この課題研究で学んだことを将来生かしていきたいと思います。